

川崎市病院栄養管理部会 第3回研修会 事業報告

報告者：京浜総合病院 中村 真奈美

日時：令和元年10月31日（木） 19:20～20:30

場所：高津市民館 視聴覚室

内容：1. 「施設における食中毒の教育と発生後の対応」について

講師 東京サラヤ株式会社 サニテーション事業本部

南関東支店 食品衛生サポート部 拠点長 馬場 智子 氏

2. 認知症対応力向上研修 「管理栄養士ができる認知症患者ケア」

講師 かわさき記念病院 栄養科責任者

病態栄養学会 認定管理栄養士 佐藤 三奈子 氏

3. 認知症対応力向上研修 「川崎市の認知症施策について」

講師 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

課長補佐 堀江 真樹 氏

企業展示：ミドリ安全株式会社

「施設における食中毒の教育と発生後の対応」について

給食施設において食中毒発生の予防・対策は重要な課題です。食中毒は年間通して発生するリスクがありますが、これから訪れる冬期にかけて多発する「ノロウイルス」。このウイルスは感染力が強く、特に注意が必要になります。今研修におきまして、ノロウイルスに対するご講演を頂きました。

今研修では、ノロウイルス発生事例から日々の衛生管理・感染後の衛生管理、ウイルスを不活化するための消毒処理について学びました。ノロウイルスは集団での感染が多い食中毒ですが、少ない菌数で感染すること、人→人へ感染する事例が半数以上であることから日々の健康管理・感染後の正しい処理を行うことが重要であることを再認識しました。

今研修の中で、消毒処理で消毒する箇所や範囲・手順で汚染のリスクが大きく変わるという話が印象に残りました。ノロウイルス発生事例におきまして、調理従事者以外にも家族からや施設からの感染も考えられます。調理従事者の衛生管理を日々徹底するとともに、調理従事者の家族や施設内で感染者が出た場合の衛生管理・消毒方法や排泄物・嘔吐物の処理方法など、正しい知識を共有する必要があると実感しました。また、知識の共有とともに緊急時にスムーズに対処できるよう、対策訓練を日々行うことで感染リスクを抑えていけるよう努めていきたいと思いました。

食品衛生に関わる方・周囲の方、施設で働く方々がそれぞれの現場でどのような対策を取るべきか、今研修で非常に勉強になりました。自分自身も感染する可能性があるということを施設全体で意識し、日々業務に取り組みたいと思います。



認知症対応力向上研修 「管理栄養士ができる認知症患者ケア」

わが国で認知症高齢者が増加していることはご存じのことと思います。認知症高齢者は、さまざまな原因で食事摂取が困難になることがあり、栄養士・管理栄養士の立場からどのようにケアしていくかは多くの施設で課題となっているかと思えます。今研修では、認知症の基礎知識からケア、食行動変化への対応について学びました。

認知症の病態はアルツハイマー型・レビー小体型・前頭側頭型・脳血管性の4つの病態に分けられ、症状や身体機能の変化は症状が異なる、というお話があり認知症の病態を正確に把握することの重要性を学びました。

私たち管理栄養士は適切な食形態・食環境を整えていき、必要栄養量を確保し栄養管理を行うことをケアとしています。しかし、一方通行にならないよう一人ひとりの視点や立場にたって患者本人を深く知る・想いを優先したケアを行う「パーソンセンタードケア」が大切だというお話しが印象に残りました。上記の認知症の病態に加え、身体状態・性格・嗜好・生活歴・人間関係など一人ひとりの背景を理解し、ケアを行うことで認知症状の改善・悪化を防ぐために必要なことだと学びました。

ご講演頂きました、かわさき記念病院様はさまざまな食行動の変化に対し、患者に合わせた様々な方法で個別に対応をとられていました。患者ごとに個々の背景を把握し、食べられない原因を探していくこと、患者が食べられる環境を作ることが重要と学びました。



また、栄養士・管理栄養士だけでなく、多職種チームで介入し、患者の状態を情報共有していくことで一人ひとりに合った対応を早期に見つけられるような体制を作れるようにしていきたいと思いました。

「川崎市の認知症施策について」

「認知症」という言葉は多くの方が耳にされるかと思いますが、どんな状態なのか、ご自身も周囲の方も分からなければ生活していく中で不安に感じられるかと思えます。市民の高齢化が急速に進む中、認知症の方は川崎市で5人に1人になると見込まれるとお話しされていました。

川崎市では、医療・行政・介護・相談機関・地域/市民・認知症疾患医療センターから成る認知症施策体系が作られています。認知症の早期診断・対応や気軽に相談できる体制、サポート施設の普及など、身近になりつつある認知症の方が、今までと同じ生活を長く続けられるために、認知症とはどういうものか情報共有し相談できる環境づくりや、認知症の支援の強化を図り、より住みやすい街を作る取組が行われていると学びました。

また支援強化を図るため、専門職の認知症への知識・技術向上を目的とした研修や地域の認知症サポート医・サポーターの育成などが行われています。今研修もその取り組みであり、非常に有意義なものでした。認知症の方との関わりやケアが栄養士・管理栄養士においても増えてきていると日々の業務の中で感じております。私たちの立場だからこそできるより良いケアができるよう、邁進していきたいと思えます。

